

群馬のスポーツ人⑤

アマ・レスリング界の不死鳥

高田裕司

太田市藤久入出身の高田裕司がレスリングを始めたのは、大泉高に入ってからである。

宝泉中学時代は柔道と本操部に入っていたんだ

高田は高校三年になつて頭角を現わし、「関東大会優勝」「インタハイ三位」「国体二位」の成績をのこした。

「本当に強くなるのは大学に入ってからだよ」

日体大に進学後、さらに力をつけた高田は52キロ級（フリー）で「全日本ジュニア選手権」「全日本選手権」とたてつづけに優勝!!

全日本選手権はこのあと連続八回優勝したよ

これは現在のところ日本記録なんだ

つぎの年（一九七四年）には二十歳で「世界選手権」にも初優勝。

これは日本歴代最年少の世界チャンピオンなんだってさ

世界選手権はこのあと計四回優勝したんだ

さらに一九七六年のモントリオールオリンピックではみごと金メダルに輝いた。

七回たたかつて六回フオール勝ちだったよ

三十八歳の高田選手 やりました!!

全日本選手権 戦十度目の優勝です!!

六年ぶり二度目のカムバックに成功しました!!

柔剣道の伝統を誇る「武の国」ぐんまの土壌から生まれ育ったレスリング。東京・メキシコの両オリンピックを連覇した上武洋次郎に続いて大輪の花をつけたのが太田市出身の高田裕司だった。大泉高校時代に初めて触れたレスリングは日体大に進学してから開花、フリーでは大学2年から7年間（国内）、5年間（国内外）の無敗を記録し、全日本選手権9度、世界選手権四度、モントリオール五輪に優勝「日本レス界最強のチャンピオン」の名をほしいままにした。

モスクワで金メダルをとつた選手に、前の年大差勝ちしてたのに!!

不参加に引退した。

そして次のモスクワオリンピックの代表にも選ばれたが、日本の不参加により現役を引退した。

だが九月に行われた世界選手権では惜しくもメダルがとれず、完全復活はならなかった。

現在は山梨学院大で後進の指導に当たっています。群馬のみなさん、長い間応援してくれてありがとう!!

それから六年後の一九九〇年、層のうすくなつた日本レスリング界のカンフル剤となるため一度目の現役復帰を決意。同年四月の全日本選手権でみごと復活した。

九月の世界選手権に勝たなければ「復活」とはいえない!!

翌年の全日本選手権で優勝し、みごとカムバックを果たした。しかしロサンゼルスオリンピックでは銅メダルにはあわりふたたび引退。

三回戦の判定負け（8-8の同点）がなかったら優勝していたのに!!

一九八三年、全日本コーチとしてヨーロッパに遠征中、当時の世界チャンピオンと練習試合をしても負けず現役復帰を決意。

おれはまだまだやれるぞ